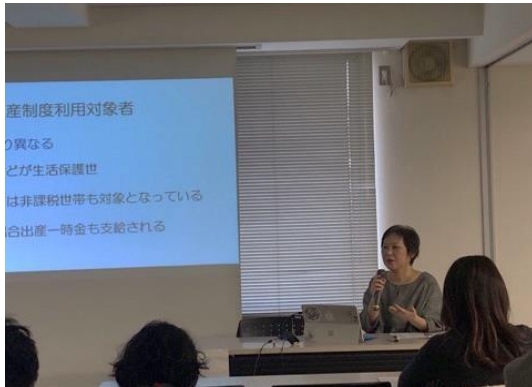


子どもと関わる支援者レベルアップ講座

～ライフステージで子どもの貧困を考える～

報告書



平成 29 年度

岡山県備前県民局委託事業

子どもと関わる支援者レベルアップ講座～ライフステージで子どもの貧困を考える～

「子どもの貧困」問題に関わる支援者やこどもの居場所（学習支援やこども食堂など）を運営している方々を対象とした学習と交流の場として全8回の講座を下記のとおり開催した。

講座プログラム

第1回	『子どもの貧困』とは何か	村井 琢哉さん (NPO法人山科醍醐こどものひろば 理事長)
第2回	当事者の視点 ～子どもを取り巻く環境はどうあるべきか～	奨学金当事者 (岡山ユースミーティング学生) ひとり親当事者(代理報告)
第3回	地域ぐるみで行う、 ひとり親・幼児・学齢期の支援	宇野 均恵さん (認定 NPO 法人ハーモニーネット未来理事長)
第4回	妊娠出産期・ひとり親支援の現場 ～地域で活躍する身近な専門職～	茅原 幸子さん
第5回	学習支援から居場所、 ワンストップ型の支援について	門馬 優さん (NPO 法人 TEDIC 代表理事)
第6回	子どもの居場所での関わり ～待つことの大切さ～	紀 奈那さん (一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ 代表理事)
第7回	青年期においても関わり続ける支援について ～アフターケアの重要性～	西崎 宏美さん (認定 NPO 法人子どもシェルターモモ専務理事)
第8回	想いをカタチに ～私たちの取り組みから～	星崎 憲太郎さん 他実践者3名 (こども食堂実践団体など)

第1回 『子どもの貧困』とは何か

日 時：10月18日（水）13：00～15：00

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：38名

講 師：村井 琢哉さん

（NPO 法人山科醍醐こどものひろば理事長）



概要

1. 子どもの貧困について
2. 地域の歴史からひも解く、子どもを取り巻く貧困問題

参加者の感想

- ・「子どもの物差し」と「大人の物差し」。子ども目線に立って今を見ることの大切さを学んだ
- ・貧困の子ども、条件に当てはまる子どもを探すのではなく出会いの中から気になる子どもが見つかるという話が印象的だった
- ・「今」を必死な人に寄り添える人が必要だと感じた
- ・子どもとの接し方を見直すきっかけになった
- ・例え、大人が「大丈夫」と言っている子どもたちにとって今困っているのを大人になるまで待つことはできない。今後の子どもたちへの接し方に役立てたい
- ・改善していかなければならない行政と問題について考えさせられた

第2回 当事者の視点 ～子どもを取り巻く環境はどうあるべきか～

日 時：10月18日（水）15：30～17：00

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：35名

講 師：奨学金当事者2名（岡山ユースミーティング学生）

ひとり親当事者1名（代理報告）



概要

1. 奨学金当事者の現在までの生き立ちと、社会に望むものについての報告
2. シングルマザーが受けた、偏見や学校からの排除の経験についての代弁
3. 感想やこれからの子ども・若者を取り巻く環境のありかたについてグループワーク

参加者の感想

- ・ひとり親家庭の大変さ
- ・子どもの貧困は子ども時代から大人時代まで続くということを改めて考えさせられた
- ・大学生の大変さに・・・（日本の社会制度何とかありませんか・・・）
- ・学生の話が衝撃的だった
- ・当事者の話を聞き、現実味が増し、考えさせられた
- ・奨学金当事者の話を聞いて良かった、手当や奨学金の対応時に役に立てれると思った
- ・制度の壁を現状でどう対応していくかが課題であると感じた
- ・自分のまわりにも同じような体験をしている人がいるかもしれないので心に留めておきたい

第3回 地域ぐるみで行う 1人親、幼児、学齢期の支援

日 時：11月15日（水）13：00～15：00

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：31名

講 師：宇野 均恵さん

（認定NPO法人ハーモニーネット未来 理事長）



概要

1. ひとり親、子育て支援に関する多様な事業の報告
2. 動画「仁の物語」から分かる子どもが背負う貧困について
3. 人とのつながりを意識した活動と地域づくりについて

参加者の感想

- ・困りごとの声をひろうこと、それを事業として立ち上げることの成功側を聞いた。同志と呼ぶ仲間、スピード感を持って対応することは素晴らしい
- ・多様な事業を組み合わせた素晴らしい活動に関心をもった
- ・色々な事業を結びつけることができれば、できないことはなくなる。地域の人が触れ合えばたすけあいの出来る社会ができてくる。みんなが心豊かに暮らせる時が来る
- ・いろんな角度からの支援をしていると思う。活動の中で見えてきた課題や意見を逃がさず1つひとつ丁寧に向き合っていると感じた
- ・行政ではできないことをしていることはよく分かったが、終始事業紹介をしていた。行政では対応できない時の社会資源を収集することができた
- ・分野別に考えるのではなく分野を横断した形の支援や居場所を考えていくことが人と人、世代間のつながりをつくることにつながると思った

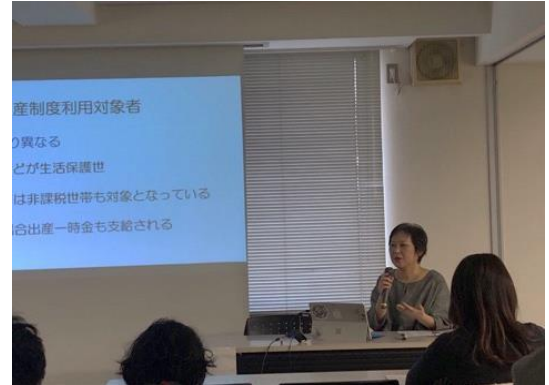
第4回 妊娠出産期・ひとり親支援の現場～地域で活躍する身近な専門職～

日時：10月15日（水）13：00～15：00

場所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：25名

講師：茅原 幸子さん



概要

1. 助産制度について
2. 保健・医療の現場から、特定妊婦への関わりの実態と事例報告

参加者の感想

- ・事例を聞いて胸が痛くなった。親身になり相談相手になり、母親のような気持ちでいたことなど絶対に支援なしでは成り立たない事例に、どうしたらよいのか、どこまで付き合っていけばよいのかと思いました
- ・出産期の助産師制度や病院のシステムについて総合病院ならではの手厚いシステム、岡山市との連携がとてもよくされていると感じた
- ・事例の母親や周りの環境、パートナーにしても色々な理由や生育歴があるとは思わなかった。なかなか理解も共感もしにくい。支援者側にどこまでも支援してあげないといけない様な状況にあると感じた
- ・子育てや子どもの成長段階などに応じた保護者のための何らかの形の支援ができればいいと思う
- ・行政との連絡を密にとりながら支援していかなければならないと思い、つながりが大切だと思った
- ・助産師制度と特定妊婦の話を知らなかったのが大変勉強になりました。出産時から支援が必要な人はたくさんいるが今回紹介があったようなケースのような連携は作れないことがあると思う

第5回 学習支援から居場所 ワンストップ型の支援について

日 時：12月13日（水）13：00～15：00

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：39名

講 師：門馬 優さん

(NPO 法人 TEDIC 代表理事)



概要

1. 震災から見えた子どもの貧困の実態
2. TEDIC の行う居場所づくり、アウトリーチ実践、機関連携について

参加者の感想

- ・寄り添い型の支援、他機関や団体、地域との連携による支援の重要性を認識しました。ボランティアへの丁寧な関わり方、大変参考になりました
- ・他機関との繋がりを作っていく上で、何を行うことが大切か、どのようなアプローチが必要であるか、工夫している点や意識する部分について知ることができ、とても参考になりました
- ・あれだけの大災害を経験し、地域資源も限られる中、これだけきめ細かい支援を実践されていることに感嘆しました
- ・ひとつの組織だけでは難しい支援も他団体、機関とつながることによって可能にしているあたりが私の団体と明確に違う点だと感じた
- ・子どもたちのみならず学校や地域の方々への連携を築くためのアプローチの方法など、大変参考になりました
- ・一定の当事者性を抱える大学生の参加、とても意味深いと思いました
- ・対象の子ども達を「家庭の収入：で限定されていないところは、非常に重要ではないかと思います。ボランティアさんの負担が気になったところです。学校への「あいさつ」の件は参考になりました

第6回 子どもの居場所での関わり～待つことの大切さ～

日 時：12月13日（水）15：30～17：30

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：40名

講 師：紀 奈那さん

（一般社団法人子どもソーシャルワークセンター
つばさ 代表理事）



概要

1. 倉敷トワイライトホームの活動報告
2. 運営、子どもとの関わりにおける留意点
3. 紀氏・門馬氏の質疑応答

参加者の感想

- ・思いをカタチにする行動力に感心するとともに、個別的な配慮を十分されていることにも驚きました。稚気との関係性、財源の問題など、諸々な課題があることを知り、参考になりました
- ・待つこと、、、とても大切なことであると改めて感じました。若者だからできること、近い視点で見れる強みというものを私たちも意識していこうと感じました。ありがとうございました
- ・「大人でなく大学生だからこそ」についてはなるほど。と思うとともに大人もしっかりしなくちゃ、と感じます。経験を活かす努力を続けたいと思います
- ・子どもたちのこと一途に考えて、頑張っておられる姿が目につきました
- ・県内でのトワイライトの具体的な活動を知ることができ、興味深かったです。なにより、大学在学中に法人を立ち上げたのがすごいです
- ・子どもとの継続的な関わりの中での支援のためにも居場所の存続
- ・法人を立ち上げた家庭や、トワイライトを運営している思いが聞けて良かったです。トワイライトの学生さんや子どもたちの楽しそうな様子がすごく伝わってきました。子どもたちも学生さんたちに関わって変わっていくし、学んでいく、学生さんもお飯が炊けるようになるし、私ももっと若い時に紀さんにあえていたらと思いました

第7回 青年期においても関わり続ける支援について～アフターケアの重要性～

日 時：1月24日（水）13：00～15：00

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：32名

講 師：西崎 宏美 さん

（認定 NPO 法人子どもシェルターモモ 専務理事）



概要

1. 子どもの権利、現在子どもが置かれている環境について
2. 青年期の支援、施設退所後児童等へのアフターケアの重要性について

参加者の感想

- ・信頼できる大人の重要性、人間形成にはつながりをつくっていく
- ・中学校教員を目指しているが、子どもたちが社会に出て生活していけるよう活動、支援すると言う意味では近い部分があると思った
- ・育った環境に安心感・安定感がない為年齢が大きくなったからだけでは独り立ちすることができず社会で生きていくための支援が必要
- ・「SOS を出せる人に！！」は印象に残った
- ・自立に向けての訓練もとても大事だがその後の継続支援も重要なことを感じられた
- ・岡山でこの困難なシーンに向き合い粘り強く支援を続けてくださっている方がいらっしゃることに心から感謝したい
- ・「年齢が高くなるほど回復には長い時間がかかる」という言葉を胸に今の時期に「SOS を出せる関係が作る」ことができるよう切れ目のない支援に取り組んでいきたい
- ・子どもが新しい世界に挑戦しても戻ってくる場所があることは安心できると思う
- ・つながりを断たずに見守り続けることで若者の自殺防止にもつながると思う
- ・それぞれのケースを必要な期間が連携できる「形だけでない」ネットワークが必要
- ・「困った子ども＝困っている子ども」を大切にしていきたい

第8回 想いをカタチに ～私たちの取り組みから～

日 時：1月24日（水）15：30～17：30

場 所：きらめきプラザ2階 大会議室

参加者：24名

講 師：星崎 憲太郎さん（NPO 法人ワーカーズコープ
岡山事業所 副所長）

五十嵐 彰子さん（子ども食堂えがお）

三谷原 強さん



概要

1. NPO 法人ワーカーズコープの行う学習支援事業について
2. 子ども食堂えがおの活動について
3. 耕作放棄地を活用した米作りと子どもの支援の応援について

参加者の感想

- ・できることを人のためにすることは素晴らしい
- ・自分たちがやるべきこと、できることを考えるヒントになった
- ・背伸びをせずに継続した支援を行っていくことの大切さ、地域で子どもと関わることの大切さを感じた
- ・想いのある方は地域に必ずいると思う
- ・関わり的重要性を再認識した
- ・こども食堂での学習の場を広げていきたい
- ・活動の実際をもっと多くの方に知ってほしいと思った
- ・耕作放棄地の話がとても新鮮だった
- ・児童虐待を減らすにはこども食堂の役割は大きいと思う
- ・「子どもたちの最善を目指す」には程遠い現状を民間で行うことで行政も把握していくことは大切
- ・いろんな支援の在り方を知った
- ・力を合わせれば大きな力になると感じた